

一般質問

・防災について



渥美昌裕

**問**

近年毎年、日本各地で豪雨や台風による河川の増水、決壊、土砂災害、停電被害と今までに経験のない大規模な災害が起きています。市の防災に対する対応策は

**答**

本市では国や県と連携し、防潮堤の整備や建物の耐震化、津波避難タワーの設置などのハード対策と、市民の方々が参加する防災訓練の実施など、ハードとソフトの両面で防災対策を進めています。豪雨による対策としては、市の管理する河川の幅を拡げる改修工事を計画的に実施するとともに、河川の浚渫工事、老朽化した水路の緊急修繕工事など、河川の保全対策を日常的に実施しています。土砂災害については県事業の「森の力再生事業」などを活用し、山間部に多くある荒廃した森林を整備するため、国、県と連携して対応していきます。停電対策については、市、事業

者、地域住民と、トタン、ビニールなどの飛散防止に取り組んでいきます。河川の草刈りに、河川愛護補助事業費が前年度不足したため、今期は草刈り計画のアンケートをとり、適正な支払い管理を行っていきます。今後、河川愛護事業が高齢化や人手不足で困難になっていきますが、地域の方と取り組みの継続について考えていきます。



池新田地区津波避難タワー

一般質問

・乳幼児教育について



櫻井 勝

**問**

少子化による園児数の減少が進む中、これからの御前崎市の園の運営については

**答**

浜岡地区の受け入れ施設が不足しています。御前崎こども園乳児棟と白羽保育園の園舎が老朽化、保育士不足、子どもを抱える問題が複雑化しています。それぞれを解決するために「御前崎市における今後の乳幼児教育の方針」を策定し、検討を進めているところですが、白羽地区の乳幼児教育につきましては、園児数の減少など、保育ニーズの変化に対応するため、白羽幼稚園と白羽保育園を統合して、こども園化にする予定です。

**問**

こども園のメリットについては

**答**

2園を1園に集約することで教職員を一定数確保できるため様々なかたちの保育のニーズに対応できます。次に教職員の資質の向上と多忙化解消です。長時間部の専属職員を確保でき

**問**

ば、幼稚園部の園児が帰ったあと園内研修の実施が可能となります。また日々の教材の準備の時間を生み出すことができ、多忙化解消につながります。

**問**

スクラム御前崎については園から高校まで目指すところを一つにして、途切れない教育を展開しています。園・小・中・高の先生方が、スクラム研究会、研修会、スクラムゼミなどで子どもに対する見方、教育への考え方を共有して、地域の子どもを同じ視点で育てる意識を養い、質の高い教育ができるよう提供します。

